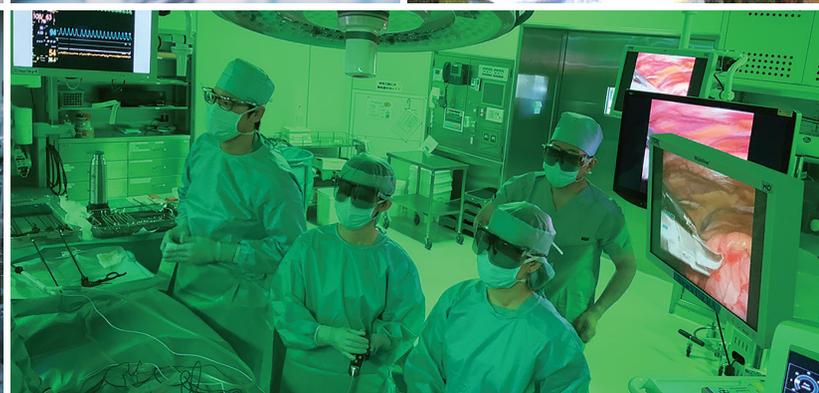
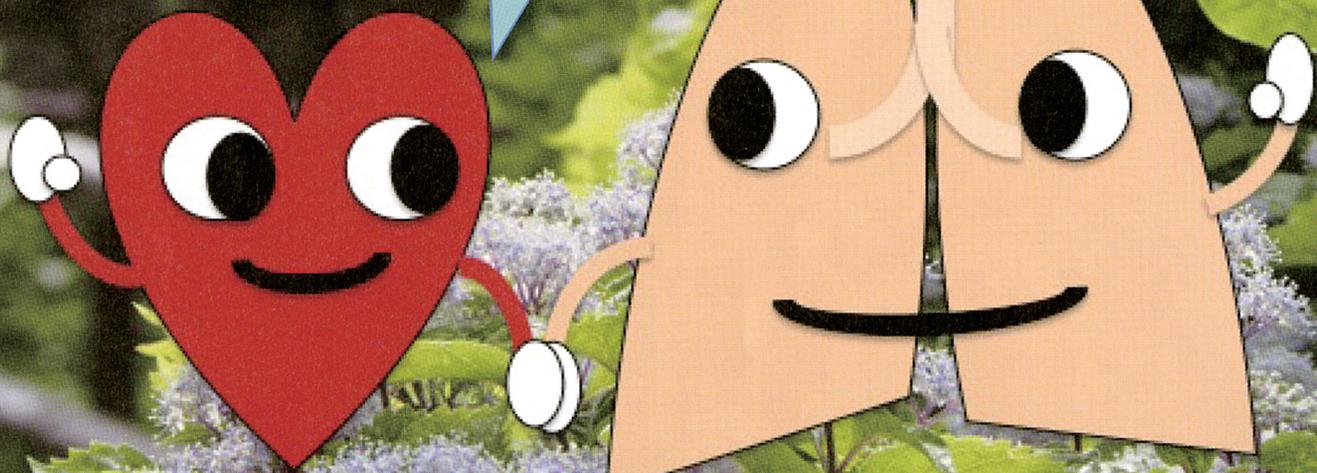


心臓血管外科／呼吸器外科



心臓血管外科／呼吸器外科

スペシャリストを
目指しませんか!!



11 心臓血管外科／呼吸器外科

科長 (研修統括者)

心臓血管外科：

福井 伸哉
在任期間 2022年7月1日～
出身大学 大阪大学医学部（平成10年卒）
専門分野 心臓血管外科

呼吸器外科：

佐々木正人
在任期間 2006年4月1日～
出身大学 福井大学（昭和63年卒）
専門分野 呼吸器外科

科長からの 一言

胸部外科は一人前になるために、確かに厳しいトレーニングが必要ですが、自らの腕で患者の命を救う喜びを最も実感できる科でもあります。困難な道の先には、登り切った人しか見ることのできない絶景が広がっています。情熱のある人の入局を期待しています。

教室の モットー、 特色

特色・雰囲気：

心臓血管外科、呼吸器外科の各チームが密接に協力、連携しながらそれぞれ専門性の高い医療を追求している。

休暇中、他大学生の実習の有無：

休暇中の実習は可能

連絡先：

入局申し込み先に同じ

モットー

よく働き、よく学び、人生を楽しむ

医局に ついて

教室員の構成：

男性 5人 ● ● ● ● ●
女性 3人 ● ● ●

卒業大学内訳：

福井大学／7人 大阪大学／1人

主な研究内容：低侵襲手術の遠隔成績の改善

X線透過性剛性素材を用いた手術器具の開発
肺癌治療に関する研究（抗癌剤感受性試験、温熱療法など）

教室員募集
について

定 員：10名（外科全体で）出身大学は問いません。

申し込み先：福井大学 医学部 器官制御医学講座外科学2 医局

締め切り：基本的に病院の締め切りに準ず。

担 当 者：名前：佐々木 正人
TEL：0776-61-3111（2350）
e-mail：masato@u-fukui.ac.jp

選考方法：面接

説 明 会：年一回

教 育：福井大学外科専門研修プログラム

医局環境に
ついて

■主な仕事内容

年 数	プログラム
卒後1年目	初期研修
卒後2年目	初期研修
卒後3年目	福井大学外科専門研修プログラムに従い、福井大学附属病院にて研修を行います。専門研修1年目では、基本的診療能力及び外科基本的知識と技能の習得を目標とします。専攻医は定期的に開催されるカンファレンスや症例検討会、抄読会、院内主催のセミナーの参加、e-learningや書籍や論文などの通読、日本外科学会のビデオライブラリーなどを通して自らも専門知識・技能の習得を図ります。専攻医はさらに学会・地方会・研究会などへの参加を通して専門知識・技能の習得を図ります。
卒後4年目 ～5年目	専門研修2年目では、基本的診療能力の向上に加えて、外科基本的知識・技能を実際の診断・治療へ応用する力量を養うことを目標とします。専攻医は前年度に引き続き学会・研究会への参加を通して専門知識・技能の習得を図ります。 専門研修3年目では、チーム医療において責任を持って診療にあたり、後進の指導にも関わり、リーダーシップを発揮して、外科の実践的知識・技能の習得により様々な外科疾患へ対応する力量を養うことを目標とします。アニマルラボなどへの研修も積極的に参加してもらいます。カリキュラムを習得したと認められる専攻医には、積極的にサブスペシャリティ領域専門医取得に向けた技能研修へ進みます。
卒後5年目～6年目	心臓血管外科専門医および呼吸器外科専門医養成カリキュラムに準じて診療。
卒後6年目	専門医養成カリキュラムに準じて診療。
卒後7年目以降	以降 専門医を取得し、博士号取得の研究に従事。

■教育・研修プログラム（呼吸器外科専門医の場合）

卒後3年目～5年目	<p>(外科専門医の修練目標に加えて以下の目標を同時に経験、習得する)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な呼吸器疾患に関する症状と理学的所見、画像検査（X線、CT、MRI、超音波検査など）、生理学的検査（心電図、呼吸機能検査、動脈血液ガス分析など）、外科病理学的検査などの基本的検査法に加え心臓血管造影法、心臓血管カテーテル検査法、経食道超音波検査法、心筋シンチグラム、肺換気・血流シンチグラム、RIアンギオグラフィーなどの特殊検査の検査結果を解析できる気管支鏡、縦隔鏡、胸腔鏡等の内視鏡検査（生検を含む）を実施し、その結果を解釈できるようにする。 2. 一般状態、加齢、他臓器機能、合併疾患を評価し、心身両面から総合的な治療計画の策定と手術適応の決定、術式の選択ができる。 3. 呼吸器外科手術の呼吸、循環動態に及ぼす影響を理解し、周術期管理、人工呼吸器操作、酸塩基平衡、輸液、輸血、感染対策、術後合併症の早期発見などの周術期管理が適正にできるようになる。 4. 呼吸器疾患の外科的治療の専門的知識と技能を習得する（合併症を有さない肺葉切除、肺楔状部分切除術などを主に執刀）。
卒後6年目～7年目	<p>上記修練目標のさらなる習熟に加え、呼吸器外科専門医合同委員会が定めた修練期間中に修練すべき手術を執刀もしくは第1助手にて経験する。</p>
その他	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器外科に関する症例報告を全国会および地方会にて最低各々1回は発表する。 2. 研究および臨床論文を年に最低1編は書き、投稿を行う。

■教育・研修プログラム（心臓血管外科専門医の場合）

1. 一般目標

倫理観を持ち、医療事故防止対策、感染対策、医療経済等にも十分に配慮できる有能で、信頼される心臓血管外科専門医を育成することを目標とする。

2. 行動目標

- (1) 心臓、血管系の発生、構造と機能を理解し、心臓疾患・血管疾患の病因、病理病態、疫学に関する知識を持つ。
- (2) 心臓疾患・血管疾患の診断に必要な問診および身体診察を行い、必要な基本的検査法、特殊検査法の選択と実施ならびにその結果を総合して心臓疾患・血管疾患の診断と病態の評価ができる。
- (3) 診断に基づき、個々の症例の心身両面に対応して心臓疾患・血管疾患に対する手術療法を適切に選択し、安全に実施することができる。
- (4) 患者とその関係者に病状と外科的治療に関する適応、合併症、予後について十分な説明ができる。
- (5) 心臓血管外科修練中の後進の外科医を日常的に指導し、その成果を評価することができる。

卒後3年目	<p>指導医のもとで心臓血管疾患の病態生理、診断技術、基本的手術手技、クリニカルパスを基本とした術前、術後管理（薬剤、人工呼吸器、酸塩基平衡、輸液、輸血、感染対策など）の基礎を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 症状と理学所見から、必要な検査法を選択して実施する。 (2) 画像診断（X線、CT、MRI、超音波検査）、生理学的検査（心電図、呼吸機能検査、動脈血液ガス分析）、虚血肢無侵襲的循環動態評価法（ABI、トレッドミルテストなど）などの基本的検査法について研修する。 (3) 心臓血管造影法、心臓血管カテーテル検査法、経食道超音波検査法、心筋シンチグラム、肺換気、血流シンチグラム、RIアンギオグラフィー、プレチスモグラフィーなどの特殊検査の検査結果の解析について研修する。 (4) 下肢静脈瘤手術、ペースメーカー移植、動静脈血栓摘除術などの血管手術の第1助手および術者を務める。 (5) また、人工心肺装置の操作に熟練した臨床工学士のもとでその理論および操作法を習得する。医療事故、インシデントの発生に際しては、これを迅速に遺漏なく対処することを研修する。
-------	--

卒後4年目	<p>指導医のもとで、一般状態、年齢、他臓器機能、合併疾患を評価し、手術適応の決定、術式の選択を含めた治療方針の立案を行う。また、主治医として、患者ならびに関係者に対する病態、診断、治療に関する十分な説明ができるように研修する。</p> <p>(1) 人工血管を使用した大腿-大腿動脈バイパス、腋窩-大腿動脈バイパスの第1助手および術者を務める。</p> <p>(2) CABGおよび末梢血管バイパス手術に使用される大伏在静脈の採取を行う。</p> <p>(3) 開心術において、指導医のもとでカニューレーションと人工心肺確立を行う。また、止血操作終了後に閉胸を行う。</p> <p>(4) 症例検討会において主たる討論者となる。</p> <p>(5) 腎下部腹部大動脈瘤の待機的手術で第1助手および末梢側吻合の術者を務める。</p>
卒後5年目	<p>医療事故予防とチーム医療の実践に不可欠なコミュニケーション能力を養う。</p> <p>(1) 難易度(A)の開心術において、術者を務める。</p> <p>(2) CABG用として内胸動脈を採取する。</p> <p>(3) 下肢の血行再建術(膝上部)の中枢側吻合の術者を務める。</p>
卒後6年目	<p>(1) 難易度(B)および(C)の開心術、大動脈手術において術者を務める。</p>
卒後7年目	<p>(1) 引続き、難易度(B)および(C)の開心術、大動脈手術において術者を務める。</p> <p>(2) 低侵襲手術の術者、助手を務める。</p> <p>(3) 大阪大学関連病院での研修も選択できる。</p>

■研修期間を通じて

専門医申請資格を満たす学会発表と学術論文の執筆、毎年1篇以上の論文執筆を行う。

日本心臓血管外科学会、日本血管外科学会、日本胸部外科学会の内、少なくとも1つには演題を申し込み学会参加する。

手術経験：心臓血管外科専門医認定機構の臨床経験評価方法に従い、3年間で250点以上、5年間で510点以上を目標とする。

	年間点数	手術手技の内容
卒後3年目	40点以上	難易度A, B)手術の第1助手、基本的手術手技
卒後4年目	80点以上	難易度A, B)手術の第1助手、難易度A)手術の術者、基本的手術手技
卒後5年目	130点以上	難易度A, B), C)手術の第1助手、難易度A, B)手術の術者、基本的手術手技
卒後6年目	130点以上	難易度A, B), の術者
卒後7年目	130点以上	難易度A, B), C)手術の術者

評価：各年次とも、達成度を以下の5段階評価で行う。

- 1：全く達していない。 2：かなり達していない。 3：おおよそ達している。
 4：ほとんど達している。 5：完全に達している。

大学院への入学状況	基本的に、専門分野の修得が終了後に希望者は入学
-----------	-------------------------

研修先病院

県 外	所 在 地	規 模
福井循環器病院	福井県福井市	199床
大阪大学医学部附属病院	大阪府吹田市	1,086床
国立循環器病研究センター	大阪府吹田市	550床
大阪急性期・総合医療センター	大阪府大阪市	865床
大阪警察病院	大阪府大坂市	580床
関西ろうさい病院	兵庫県尼崎市	642床
心臓病センター榊原病院	岡山県岡山市	297床
名古屋徳洲会総合病院	愛知県春日井市	350床
りんくう総合医療センター	大阪府泉佐野市	388床
市立東大阪医療センター	大阪府東大阪市	520床
大阪はびきの医療センター	大阪府羽曳野市	500床
大阪刀根山医療センター	大阪府豊中市	410床
近畿中央呼吸センター	大阪府堺市	365床

関連病院

県 外	所 在 地	規 模
長浜赤十字病院	滋賀県長浜市	584床

県 内	所 在 地	規 模
国立病院機構敦賀医療センター	敦賀市	273床
福井県済生会病院	福井市	460床
福井赤十字病院	福井市	600床
中村病院	越前市	199床
福井厚生病院	福井市	199床
林病院	越前市	216床
斉藤病院	鯖江市	90床
嶋田病院	福井市	117床
坂井市立三国病院	坂井市	105床
公立丹南病院	鯖江市	179床
杉田玄白記念公立小浜病院	小浜市	456床
大滝病院	福井市	110床
池端病院	越前市	30床
福井勝山総合病院	勝山市	199床
越前町国民健康保険織田病院	越前町	55床

他科へのローテート	希望により可能
-----------	---------

基礎系への出向	希望により可能
---------	---------

給 料	大学からの給料+週1～2回の関連病院からの給料
-----	-------------------------

バイト先の情報	入局後、関連病院にて最初1年は当直を中心に1～2週に1～2回、その後、週1～2回、外来診療、当直を行う。
---------	--

付記

【心臓血管外科専門医認定基準】

1. 日本国の医師免許証を有すること。
2. 外科専門医あるいは外科専門医筆記試験合格者であること。(ただし、外科専門医筆記試験合格者においては、心臓血管外科専門医を認定する時点では、外科専門医資格が必要である)
3. 卒後修練期間7年以上を有すること。
4. 認定修練施設において3年以上の修練期間を有すること。
5. 修練期間中に別に定める手術経験を有すること。(心臓血管外科専門医認定のための臨床経験評価方式)
6. 心臓血管外科学に関する一定の業績を有すること。
論文・著書：査読制度のある全国誌以上の心臓血管外科に関する論文3編以上(筆頭論文1編以上を含む)
学会発表：全国規模あるいはそれ以上の学術集会において筆頭で3回以上(少なくとも1回は日本胸部外科学会学術集会または日本心臓血管外科学会学術総会または日本血管外科学会総会で発表)
日本胸部外科学会地方会及び日本血管外科学会地方会での発表は、0.5回としてカウント可能(ただし、2度を上限とする)
学会参加：日本胸部外科学会学術集会、日本心臓血管外科学会学術総会、日本血管外科学会総会に計3回以上参加していること
セミナー参加：心臓血管外科専門医認定機構が認めたセミナー(卒後教育セミナー、Postgraduate Course等)に3回以上参加していること
医療安全講習会：心臓血管外科専門医認定機構が認める医療安全講習会を2回以上受講していること
Off the Job Training：30時間以上受けていること
心・大血管手術における体外循環及び補助循環技術参加型実習：5例の経験を有すること
7. 申請時において、日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会、日本血管外科学会の内の少なくとも2学会の会員であり、それぞれ3年以上の会員歴を有すること。
8. 主たる認定修練施設の修練責任者からの申請者の評価を含めた推薦状を添付すること。推薦状には修練責任者の自筆署名(または記名と捺印)および署名日を付けること。
9. 新規申請者は少なくとも直近3年間は修練医登録を行っていないなければならない。

(試験)書類審査合格者に対して筆答試験を行う。

心臓血管外科の手術手技のほか病態生理、各種検査法、補助手段、医用材料などにつきコアカリキュラムに則って広く出題する。

【呼吸器外科専門医の認定基準】

呼吸器外科に関する十分な専門的知識と技量を有する者を認定し、社会からの信頼と評価を得て、医療の中で位置付けされるための専門医制の導入を目的とする。呼吸器外科専門医制度は、日本胸部外科学会認定医制度・指導医制度(昭和56年4月1日発足)・日本呼吸器外科学会専門医制度(昭和63年6月10日発足)及び2学会(日本胸部外科学会・日本呼吸器外科学会)構成の呼吸器外科専門医認定機構による呼吸器外科専門医認定制度(平成14年1月1日発足)を改正し継承したものである。

1. 日本国の医師免許証を有すること
2. 外科専門医であること
3. 卒後修練期間7年以上を有すること
4. 認定修練施設において3年以上の修練期間を有すること
5. 修練期間中に別に定める手術経験を有すること
6. 呼吸器外科学に関する別に定める一定の業績(学会発表、論文発表)および研修業績(学会参加、学会が認めるセミナーや講習会への参加)を有すること
7. 日本呼吸器外科学会および日本胸部外科学会の会員であり、3年以上の会員歴を有すること

(試験)書類審査合格者に対して、筆答試験を行う。

呼吸器の発生、解剖と機能、呼吸器外科における検査法、呼吸器外科疾患各論、呼吸器疾患の手術法、周術期管理などにつき広く出題する。

認定医、
指導医の
取得状況

氏名	職名	認定医・指導医等の名称
福井 伸哉	教授 ・ 科長	日本外科学会 外科専門医・指導医 心臓血管外科修練指導医・専門医 心臓血管外科修練施設責任者 胸部大動脈ステントグラフト指導医 腹部大動脈ステントグラフト指導医 日本循環器学会 北陸支部役員 北陸外科役員
佐々木正人	准教授 ・ 科長	日本外科学会 外科専門医・指導医 日本呼吸器外科学会 指導医・専門医 日本胸部外科学会認定医 北陸外科役員
山田 就久	講師 ・ 副科長	日本外科学会 外科専門医 心臓血管外科専門医 腹部ステントグラフト指導医・実施医 胸部ステントグラフト実施医 下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施医・指導医 浅大腿動脈ステントグラフト実施医 日本脈管学会 脈管専門医
高森 督	助教	日本外科学会 外科専門医・認定医 下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施医 日本脈管学会 脈管専門医
田邊佐和香	助教	日本外科学会 外科専門医、心臓血管外科専門医、脈管専門医
左近 佳代	助教	日本外科学会 外科専門医、日本呼吸器外科学会専門医
岡田 晃斉	助教	日本外科学会 外科専門医、日本呼吸器外科学会専門医
川村 祐子	特命助教	日本外科学会 外科専門医 下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施医
森岡 浩一	医療安全管理部 教授	日本外科学会 外科専門医・指導医 日本胸部外科学会認定医 心臓血管外科専門医・修練指導医

連絡先

心臓血管外科に関する問い合わせは、
福井 伸哉（科 長）(s-fukui@u-fukui.ac.jp)

呼吸器外科に関する問い合わせは、
佐々木正人（科 長）(masato@u-fukui.ac.jp)、
または、医 局 (tel 0776-61-3111、内線2350) まで。